

# 「行きがい」と「生きがい」のある 観光まちづくり

## 第2次川西町観光基本計画



令和3年6月  
山形県川西町

# 目 次

第1章	計画策定にあたって	1
1	計画策定計画の趣旨	1
2	計画の期間	1
第2章	現状と課題	2
1	観光を取り巻く環境	2
2	川西町の現状	3
	(1)人口の推移	3
	(2)観光客の推移	3
	(3)観光資源	6
	(4)交通網	1 2
	(5)観光関連団体等	1 2
3	第1次川西町観光基本計画の成果と課題	1 3
	(1)観光基盤の整備	1 3
	(2)ふれあいの丘の充実	1 3
	(3)地域資源の掘り起こしと活用	1 3
第3章	基本的な考え方	1 4
1	計画の目指す姿	1 5
2	基本目標	1 5
3	基本方針	1 6
	(1)地域資源の発掘と磨き上げ	1 6
	(2)観光の拠点整備	1 6
	(3)効果的な情報発信の強化	1 6
	(4)観光推進体制の確立	1 6

4 数値目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

**第4章 主要アクションプラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18**

1 地域資源の発掘と磨き上げ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18  
    (1)広域観光の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18  
    (2)体験観光の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19  
    (3)魅力を高める観光資源の開発・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

2 観光拠点の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20  
    (1)ふれあいの丘の各施設の充実と連携・・・・・・・・ 20  
    (2)ダリアの総合拠点となる川西ダリヤ園の充実・・・・ 21  
    (3)町内滞在時間を延ばす取り組みの構築・・・・・・・・ 22

3 効果的な情報発信の強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23  
    (1)ICTを活用した情報発信・・・・・・・・・・・・・・・・ 23  
    (2)ターゲットに応じた発信媒体の活用・・・・・・・・ 23

4 観光推進体制の確立・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24  
    (1)総合的な受入体制の構築・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

◎アクションプランの取組主体とスケジュール・・・・・・・・ 25

◎計画推進の検証評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

◎むすびに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

**【参考資料】**

表紙の写真

左上：下小松古墳群のひめさゆり  
左下：真濟僧正入定の地

右上：川西ダリヤ園のダリア  
右下：置賜公園ハーブガーデンフェア

# 第1章 計画策定にあたって

## 1 計画策定の趣旨

国は、観光を力強い経済を取り戻すための重要な成長分野として位置づけ、平成18年に観光立国推進基本法を制定し、翌年には観光立国基本計画を閣議決定し、世界の観光需要を取り込むことによる地域活性化や雇用機会の増大などを旨とするにしました。

山形県は、平成26年4月に施行された「おもてなしの山形県条例」に基づき、平成27年3月に策定した「おもてなし山形県観光計画」が令和元年度で最終年度を迎えたことから、本県経済の持続的な発展や魅力ある活力に満ちた地域社会の実現を図るため、「第2次おもてなし山形県観光計画」を令和2年3月に策定しました。

本町においては、平成27年12月に第5次川西町総合計画『かわにし未来ビジョン』を策定し、住む人が誇りを持ち、訪れる人が憧れを抱くまちをつくるため、基本目標「夢と愛を未来につなぐまち～田園回帰の時代の流れの中で～」を掲げました。そして、まちづくりのテーマを『「協働」そして「共創」へ』とし、観光は分野別目標「挑戦するまちをつくる」中の「魅力ある観光づくり」として位置づけられ、次の施策が示されています。

- ふれあいの丘の機能充実
- 広域的な観光資源の活用と連携強化
- 効果的な情報発信の強化

「第2次川西町観光基本計画」は、本町における観光の基本的な考え方を示し、魅力ある資源を活用し、町民と各種団体、事業者、行政が一体となり、着実に観光の振興を図るための方針と主要アクションプランを定めるものです。

なお、本計画は町の上位計画、第5次川西町総合計画・後期基本計画との整合性を図ります。

## 2 計画の期間

本計画の期間は、令和3年度を初年度とし、令和7年度までの5年間とします。

## 第2章 現状と課題

### 1 観光を取り巻く環境

観光を取り巻く環境は、「団体旅行」から「個人旅行」へ、そして、インターネットによる情報収集や旅行手配の迅速化、地域の日常空間を活かした滞在交流へと大きく変化しています。

観光は、交流人口の拡大や地域の魅力の新たな発見により、地域の活性化が図られるものと期待されています。

図表 2 - 1 旅行動向の変化

区分	従来	変化
旅行形態	団体旅行	個人旅行
観光需要	発地型観光 (バスツアー等)	着地型観光 (観光地でのふれあい、体験等)
観光情報の 取得手段	旅行会社の企画 パンフレット類	ホームページ ソーシャルネットワークサービス
観光目的	観光地めぐり	その地でしか味わえない体験
消費思考	価格重視思考	品質重視思考

## 2 川西町の現状

### (1) 人口の推移

川西町の人口は、町が誕生した昭和 30 年の 30,294 人をピークに減少が続いており、令和 2 年には 14,541 人（令和 2 年国勢調査速報値）となり、5 年間で 1,200 人以上が減少しています。

なお、川西町まち・ひと・しごと創生 総合戦略では、20 年後の令和 22 年に町の人口が 12,000 人を維持することを目標としています。

図表 2－2 川西町人口推移 (単位:人)

区分	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2 (速報値)
総人口	21,548	20,764	19,688	18,437	17,313	15,751	14,541
0～14 歳	3,936	3,370	2,696	2,206	1,953	1,749	
15～64 歳	13,859	12,714	11,740	10,904	9,976	8,663	
65 歳以上	3,753	4,680	5,252	5,327	5,384	5,339	

資料：国勢調査

### (2) 観光者数の推移

川西町の観光者数は、川西ダリヤ園や川西町浴浴センター「まどか」、川西町フレンドリープラザ、かわにし森のマルシェ等で年間 40 万人を超え、5 年前の調査時と比べ約 2 倍の伸びとなっています。

観光者が増加した要因としては、川西町浴浴センター「まどか」が平成 27 年のリニューアルとともにサービスを向上させ、レストランや宴会利用、宿泊者が大きく増加したほか、川西ダリヤパークゴルフ場が平成 30 年にオープンし、多くの愛好者にプレーを楽しんでいただいていることがあげられます。

ほかにも、かわにし森のマルシェは平成 26 年のオープン以来順調に推移していることや、川西ダリヤ園の入園者数が平成 29 年には 62,915 人となり、昭和 63 年の有料化以降最高を記録しました。

一方で、本町の観光は、月別の観光者数はダリアの季節である 9 月から 10 月に集中しており、それ以外の四季を通じた誘客が課題となっています。

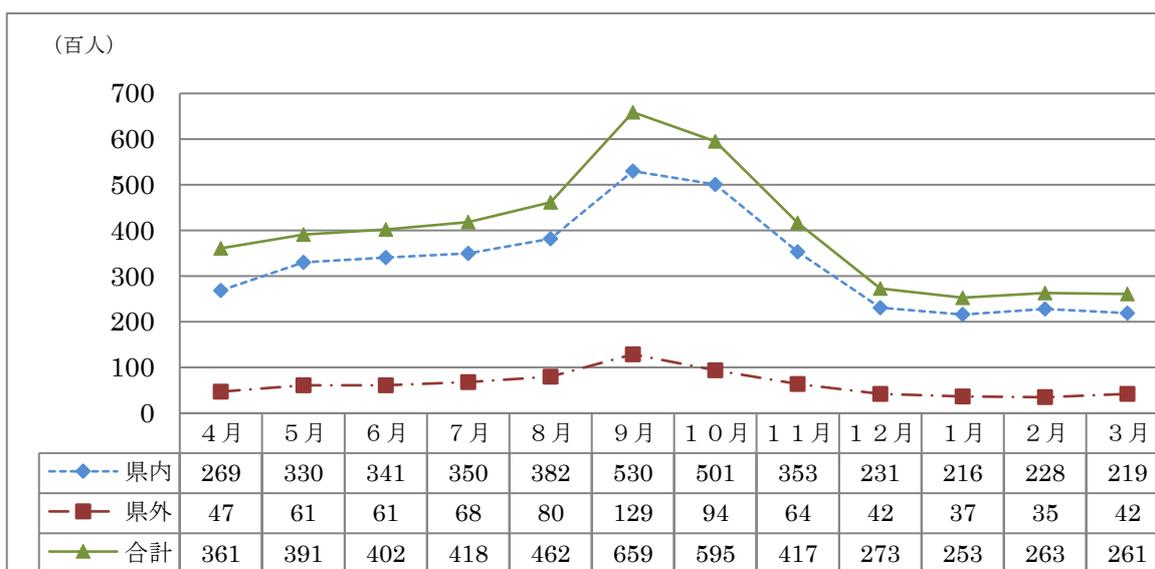
図表 2 - 3 年度毎川西町観光者数推移

(単位：人)

区分	H28	H29	H30	R1	R2
川西ダリヤ園	58,356	62,915	50,024	45,318	49,643
置賜公園ハーブガーデン	6,659	7,116	6,736	6,512	2,702
川西町浴浴センター「まどか」	136,093	139,347	136,504	130,924	79,261
川西ダリヤパークゴルフ場	-	-	9,081	11,785	14,481
川西町フレンドリープラザ	28,201	36,744	34,832	31,213	15,487
掬粋巧芸館	1,211	747	549	調査対象外	休館
山形南カントリークラブ	30,306	27,986	29,150	28,488	30,649
雁鏡農園	18,671	15,056	15,696	13,586	5,995
かわにし森のマルシェ	78,514	95,777	159,557	201,949	219,970
合計	358,011	385,688	442,129	469,775	418,188

資料：県観光者数調査

図表 2 - 4 月別観光者数推移 (令和元年度)



図表 2 - 5 川西ダリヤ園と近隣有料花公園の観光者数等（令和元年度）

区分	所在地	開園期間	観光者(人)	県内外者のおよその割合	入園料
川西ダリヤ園	川西町	8/1(木) ～11/4(月祝)	45,318	8:2	大人 540 円 小学生 210 円
東沢バラ公園	村山市	6/4(木)～7/5(日) 9/7(月)～30(水)	56,199	3:7	大人 600 円 小中学生 300 円
あやめまつり	長井市	6/13(土) ～7/5(日)	71,625	8:2	大人 500 円 小中学生 200 円
どんでん平 ゆり園	飯豊町	6/13(土) ～7/26(日)	30,910	6:4	大人 610 円 小中学生無料
南陽の 菊まつり	南陽市	10/16(金) ～11/12(木)	16,549	7:3	大人 300 円 小中学生 200 円

資料：所在地の観光部署聞きとり

### (3) 観光資源

#### ① 自然

川西町は、周囲を飯豊、朝日、蔵王、吾妻の 2,000m級の山岳に囲まれた置賜盆地のほぼ中央に位置し、北東部は肥沃な水田が広がる平坦地で、南西部は標高 300～500m ほどのなだらかな山が連なる丘陵地となっています。最上川に注ぐ犬川や黒川などの小河川が貫流し、緩やかな谷には水源として多くの堤が築かれています。

気候は、日本海側の特徴を持ち、雪解け後草木が一斉に芽吹く春、盆地特有の暑さにみまわれる厳しい夏、稲穂が黄金色に染まり山々が錦秋に彩られる秋、真っ白な雪に覆われる冬と四季の彩りが鮮やかに感じられます。

植生では、氷河期の遺存植物や高山に分布する種が比較的低い標高でも見られるなど多雪地ならではの特徴があり、かつて人々の生活を支えた里山は、山菜やキノコなどに恵まれており、現在でも町民はもとより、町外、県外からも山の恵みを採取する人々が数多く訪れています。

【四季】 新緑／深緑／紅葉／雪

【景観】 散居集落／盆地／山岳遠望／星空／朝霧／虹／朝焼／夕焼／雑木林  
／ヒメコマツ群生／湿地／湧水／堤／川

【桜】 置賜公園／龍蔵桜／石割桜

【動植物】 ニホンカモシカ／白鳥／チョウセンアカシジミ／ハッチョウトンボ  
／ヒメサユリ／ニッコウキスゲ／水芭蕉／ツクシガヤ

【山菜、キノコ】 タラの芽／ワラビ／コシアブラ／ミズナ／ウド／舞茸  
／シメジ／ナメコ／アマタケ

など



下小松古墳群から見た風景



満開の龍蔵桜（犬川地区新町地内）

## ② ふれあいの丘

町内の観光施設は、川西ダリヤ園を中心にした一帯に資源が集積し、町では「ふれあいの丘」として位置付けています。開園期間が8月～11月上旬のダリヤ園のほか、原田城址があり春の桜や初夏のハーブが魅力の置賜公園、町内の小中学生に人気の川西町営小松スキー場、ハイキングやマウンテンバイクが楽しめる内山沢遊歩道や日帰り入浴、地元の食材を使ったレストランがある温泉宿泊施設 川西町浴浴センター「まどか」があります。また、夏場に小松スキー場一帯を利用する川西ダリヤパークゴルフ場（36ホール）が平成30年にオープンしました。

また、ふれあいの丘一帯には、平安時代に空海の十大弟子の一人である真済僧正が開いた古刹大光院や、カフェを併設したライブハウスなどの施設もあります。

ふれあいの丘では、ダリヤ園での各種催しのほか、地酒と黒べこまつり、水上爆走、マウンテンバイク大会などのイベントも盛んに行われています。

【川西ダリヤ園】 ダリア／売店／遊具

【置賜公園】 桜／ハーブガーデン／日本庭園／原田城址／草木塔／鏡沼

【小松スキー場】 スキー／スノーボード／スノーシューハイク／ウォーキング

【内山沢遊歩道】 ハイキング／マウンテンバイク／ヒメサユリ

【浴浴センターまどか】 レストラン／温泉

【パークゴルフ場】 36ホール

【イベント】 地酒と黒べこまつり／水上爆走大会／マウンテンバイク大会

【周辺施設】 大光院／ライブスペース Jam

など



雪板  
(川西町営小松スキー場)



ハーブを使ったワークショップ  
(置賜公園ハーブガーデンフェア)

### ③ 宿泊施設

町内の宿泊施設は、ダリヤ園の隣接地に温泉保養施設 川西町浴浴センター「まどか」があります。部屋は、和洋室、和室、シングル、ツインの4タイプがあり、宿泊定員は51名です。

また、羽前小松駅周辺には、割烹料理屋が営む旅館が2軒営業しています。

その他の宿泊施設として、合宿や研修向けに、町民総合運動公園内のクラブハウスと、合宿所として利用が可能な町交流館があります。

なお、小中学生の教育旅行の受け入れ先として、農業体験と合わせて農家民泊が行われていますが、受け入れ人数は限られています。

【ふれあいの丘】 浴浴センターまどか

【小松駅周辺】 割烹旅館

【合宿施設】 町民総合運動公園クラブハウス／町交流館

【教育旅行】 農家民泊



浴浴センターまどか大広間  
(春待ち雪見の宴にて)



浴浴センターまどか外観

### ④ 歴史・文化

置賜盆地の中心に位置する本町は、古墳時代にはヤマト王権の影響下にあったことが下小松古墳群（国指定史跡）などの存在により明らかで、下小松地内の道伝遺跡の調査結果から奈良時代の末には置賜郡衙が置かれていたと考えられています。平安時代には高僧真済が東北巡錫の途上で小松を訪れ大光院を開いたと伝えられ、仏教文化が色濃くもたらされています。

近世になると、小松は伊達氏や蒲生氏、上杉氏による支配のもとで越後街道の宿駅が置かれ、物資が集散する交通の要衝として発展し、酒造りなども盛んに行われました。また、山間部にある玉庭地区には米沢藩の下級藩士が多く配置され、独自の文化が根付きました。

近代以降、商業の町小松では旦那衆による町人文化が花開き、明治期には英国の旅行作家イザベラ・バードが小松を訪れ、その様子を『日本奥地紀行』に記しています。一方、稲作が盛んな周辺部では、昭和40年代の初めには米の反収日本一を達成するなど高い技術が耳目を集めました。

また、町出身で戦後日本を代表する作家・劇作家である井上ひさし氏の蔵書による遅筆堂文庫が昭和62年に開館、その後演劇ホールを中心に遅筆堂文庫と町立図書館を併設して川西町フレンドリープラザが平成6年に開館し、文化交流の発信拠点として多くの人々が訪れているほか、町内には個人が設置したライブハウスや古民家を改修した文化施設もあり、音楽や多彩な文化活動が展開されています。

さらに、町内の酒蔵の一つである樽平酒造株式会社の10代目井上庄七氏が収集した日本、中国、朝鮮を中心とした東洋陶磁600点余りを収蔵している掬粹巧芸館もあります。

- 【歴史遺産】 天神森古墳／下小松古墳群／城館跡／八幡神社本殿（洲島）／宿場町／酒蔵／古民家／かやぶき屋根／越後街道／峠／石碑／草木供養塔／西大塚駅舎及びプラットフォーム
- 【民俗行事】 小松豊年獅子踊／獅子舞／商宮律／神送り／虫送り／ひなめぐり／天神神輿／さなぶり／かっきり／だんごさげ／さいと焼き
- 【井上ひさし】 フレンドリープラザ／遅筆堂文庫／演劇／『下駄の上の卵』
- 【その他】 イザベラ・バード／文学作品の舞台／映画ロケ地／ライブスペース Jam／土礼味庵／八幡蔵／掬粹巧芸館／川西町交流館あいぱる（埋蔵文化財資料展示館、アルカディア人物館）など



八幡神社本殿（洲島）



原田城址

## ⑤ 食と特産品

肥沃な田園が広がる本町は、全国屈指の米どころとして知られ、「つや姫」や「コシヒカリ」、「はえぬき」などの良質米が全国へ向けて出荷されています。また、米を利用した酒造りも盛んで、餅や米粉を用いたケーキなども製造されています。

一方、多くの家庭にある畑では、多品種の野菜や豆類、そばなどが作付けされています。これらの中には良食味を誇るものや希少な在来種もあり、さまざまな形で流通するものが増えてきました。とりわけ、在来の豆「紅大豆」をきっかけにして、近年は「豆のまち」としても注目を集めています。

畜産では、黒毛和牛の子牛生産と肥育が盛んに行われ、熱心な農家の努力によってその多くは全国的に名高いブランド牛「米沢牛」として出荷されています。

これらの郷土色豊かな食材は、各家庭の食卓を彩るばかりか、近年は飲食店や各種団体等によって惣菜などに加工され商品化が行われています。このほかにも伝統的な和菓子や納豆や味噌などの発酵食品も高い評価と人気を誇る特産品です。

その他には、国内大手メーカーによる鉛筆やボールペンなどの筆記具や、町の花ダリアを活用した土産品などがあります。

【農産物等】 米／アスパラガス／枝豆／キュウリ／ブドウ（デラウェア）／牛肉（米沢牛）／豆（紅大豆）／そば／切り花ダリア／アルストロメリア

【加工食品】 日本酒／和菓子／納豆／味噌／もち／牛惣菜／米粉菓子／漬物／郷土料理

【その他】 かわにし森のマルシェ／鉛筆／ボールペン／ダリア土産品

など



川西町の地酒



米沢牛

## ⑥ 体験と人

川西町を訪れる人にとって、農家の暮らしや食の体験、自然を生かした活動などは魅力的なアクティビティです。

田んぼや畑仕事などの農作業、わら細工やつる細工、山菜採りや茸採り、笹巻きづくりや味噌づくりなど、地元の人と一緒にの活動が体験できます。

また、東沢地区の農事組合法人は紅大豆のオーナー制度を設け、農作業や郷土料理の調理などを通じて一年を通じた交流を行っています。

この他にも、まち歩きをお手伝いする観光ボランティアガイドや特定非営利活動法人、置賜農業高校生、マウンテンバイクやスノーシューなどアウトドアでの活動をサポートするグループ、豆に詳しい女性たちなど、体験とともに川西町の魅力を伝える人たちがたくさんいます。

また、川西町交流館内には、偉大な功績をあげた町出身者を紹介する先人顕彰コーナーもあります。

【農村体験】 受入農家の会／農事組合法人夢里／地域のみなさん

【まち歩き】 ダリヤの里かわにし案内人／えきまちネットこまつ／  
置賜農業高校

【アウトドア活動】 チーム白猿

【その他】 マメリエ／川西町が誇る偉人（先人顕彰コーナー）

など



まちあるき



マウンテンバイク

#### (4) 交通網

本町は、町中心部に J R 米坂線の羽前小松駅があり、上下合わせて 1 日 21 本、1 時間に約 1 本の運行状況です。また、東京から米沢駅経由で本町までの所要時間は、山形新幹線（東京 - 米沢間）で約 2 時間 10 分と在来線（米沢 - 羽前小松間）で約 30 分となり、合計で約 2 時間 40 分です。

また、町北部を第 3 セクターが運営するフラワー長井線が通っているほか、路線バスは民間で運行し、羽前小松駅から米沢市六郷地区を經由し、米沢駅に至る区間が、上下線各 3 便ずつ運行されていますが、観光での利用にはあまり適していません。

そのほか、車両を数台ずつ保有しているタクシー会社が 3 社あり、その 3 社の協力のもと、登録利用制の乗合タクシーであるデマンド交通が運営されていますが、利用は住民に限られており、観光客は利用できない状況です。

#### (5) 観光関連団体等

##### ① 川西町観光協会

町の観光振興は、昭和 36 年に組織された川西町観光協会が担っています。事務所を平成 27 年 7 月に町役場から羽前小松駅前通りに移転し、川西ダリヤ園の直営売店、切り花・球根販売や誘客活動など町からの受託業務やイベント開催による賑わいづくりを行っています。

運営は、町からの運営補助金と受託金のほか、個人と法人団体からの会費、そして町内全戸から会費を主な財源としています。

##### ② その他団体等

平成 22 年に交流人口拡大や地域活性化を進めるため、やまがた里の暮らし推進機構が設立され、移住定住、教育旅行等の交流事業を展開しています。

また、翌年に、えき・まちネットこまつ（現在の特定非営利活動法人）も設立され、町の玄関口である羽前小松駅の運営や中心市街地の活性化、観光プランづくりなど交流によるまちなかの賑わいづくりを展開しています。

さらに、川西町商工会でも、町の魅力を高めるために飲食店マップを作成し、まちゼミなどの事業を通じて誘客に努めています。

### 3 第1次川西町観光基本計画の成果と課題

本町は、宿泊施設が少なく、全体的に観光に関わる事業者も少ないため、観光の振興は川西町観光協会や町が中心となって担ってきたことから、町民の目線でまちづくりにつながる考えが不足していました。

しかし、個人旅行や着地型観光など多様化する観光者のニーズに対応するために、町民一丸となって、自然や景観、食、歴史、文化などの資源に磨きをかけ、町全体で人を呼ぶ工夫をしなければ訪れてもらえる地域にはなりません。

川西町の観光は、川西ダリヤ園、浴浴センターまどか、川西ダリヤパークゴルフ場、フレンドリープラザ、かわにし森のマルシェ等、令和元年度に 469,775 人が来町しました。

これらを踏まえながら、第1次川西町観光基本計画の進捗状況より、次の項目について成果と課題として整理します。

#### (1) 観光基盤の整備

成果：ダリヤ園、浴浴センター及びパークゴルフ場における Wi-Fi 環境を整備しました。

課題：効果的な観光情報発信、観光客の交流サービス機能の充実及び観光総合窓口機能が必要です。

#### (2) ふれあいの丘の充実

成果：浴浴センターまどかのリニューアルと、川西ダリヤパークゴルフ場のオープンにより、誘客が大きく向上しました。また、ダリヤ園の入場者数は6万人を超えました。

課題：来町の観光の拠点である川西ダリヤ園を含む「ふれあいの丘」の各施設の充実と連携を図り、かつ、一体的な管理運営体制の構築が必要です。

#### (3) 地域資源の掘り起こしと活用

成果：川西産オリジナル品種の切り花ダリアについて、市場への出荷に向けて準備が進みました。

課題：地域資源の掘り起こしと既存素材の磨き上げを行うとともに、まちなか周遊を楽しめるように飲食店等との連携強化が必要です。

### 第3章 基本的な考え方

私たちが生まれ、育ち、暮らしている町を将来にわたり「住み続けられる町」として、活力あるまちであり続けるためには、住む人が「誇り」を持ち、訪れる人が「憧れ」を抱くまちをつくることが重要となります。

観光振興策を図ることは、新たな産業の創出や雇用機会の増大など経済的効果が期待されます。また、町民と来訪者の交流が活性化し、川西町の魅力を感じ町のファンが増加することは、移住や定住の足掛かりとなるものであり、町民の生きがいにもつながるものです。そして、これらの効果を交差させることにより地域の活性化に繋げることが大切となります。

このように、川西町を訪れる観光客にとって「魅力的で生きがいのある町」であり、また、町民が「生きがいを感じられる町」を目指し、人口減少による経済活動の落ち込みを、観光者を迎え入れて補うべく、観光振興策を講ずるものです。

#### 観光消費の経済効果（令和元年・山形県観光者数調査より）

●定住人口1人あたりの年間消費額 1,250千円

＝国内旅行者（宿泊）1人あたり県内消費額（@29.6千円）×約 42人分

国内旅行者（日帰）1人あたり県内消費額（@ 6.6千円）×約 189人分

国内宿泊旅行者が約 42人（日帰り旅行者の場合は約 189人）増えることによって、定住人口の減少1人分の経済活動の縮小を補うことができるとされています。

川西町の場合は、人口が年間140人程度減少することを想定していることから、補完するには

→国内旅行者（宿泊） 5,880人（1日あたりでは 16人）

国内旅行者（日帰） 26,460人（1日あたりでは 72人）で補うことができます。

## 1 計画の目指す姿

町民が、将来において地域で暮らし、その中で誇りや生きがいを体現できる豊かな観光のまちづくりを目指します。

また、川西町の観光の魅力を伝える町民と来訪者が共有するメッセージとして、次のとおりスローガンを定めます。

**「行きがい」と「生きがい」のある観光まちづくり**

## 2 基本目標

観光の側面から「経済効果を向上」させる主要因を、「観光資源の活用」及び「町内滞在時間の延長」と捉えます。

「観光資源の活用」では、地域資源の発掘と磨き上げにより魅力を高めるとともに、効果的な情報発信に努めることで入込客数とリピーターの増加に繋がります。

また、滞在時間を延ばすことによって消費単価の引き上げが見込まれるため、町内宿泊や町内周遊へ積極的に誘導することにより「町内滞在時間の延長」を目指します。

そして、これらの取り組みを併せることで、より充実した観光が成立し「経済効果の向上」に繋がっていくことを目指し、次のとおり基本目標として定めるものです。

**「観光資源の活用」と「町内滞在時間の延長」を推進し  
観光消費の拡大による「経済効果の向上」**

### 3 基本方針

これまで整理してきた現状と課題をもとに、計画の目指す姿を踏まえ本計画の基本方針を次のように定めます。

#### (1) 地域資源の発掘と磨き上げ (P18～P20)

新たな視点での地域資源の発掘と磨き上げを行うとともに、広域的な観光資源を活用した誘客促進を図るため、近隣自治体や観光施設等との連携を強化します。

さらに、町内観光資源の充実を図ります。

#### (2) 観光の拠点整備 (P20～P22)

健康の増進を目的とした保養施設等の活用をはじめ、地域間交流や四季の観光拠点としてのエリアである「ふれあいの丘」の機能充実を図ります。

#### (3) 効果的な情報発信の強化 (P23～P24)

町の観光情報を効果的に発信していくために、ICTの積極的な活用を図るとともに、各種媒体による情報提供及びPR活動を推進します。

#### (4) 観光推進体制の確立 (P24)

継続性のある観光推進体制の強化に向けて、関係機関と連携して、旅行者を受け入れる土台づくりを促進します。

#### 4 数値目標

数値目標は、かわにし未来ビジョン（第5次川西町総合計画）後期基本計画より、重要業績評価指標（KPI）を引用します。

（単位：人・件）

区 分	基準値（R1実績）	目標値（R7）
ダリヤ園入園者数	45,318	67,000
浴浴センターまどか利用者数	130,924	140,000
パークゴルフ場利用者数	11,785	12,000
広域連携による取り組み数	9	10
観光関連SNSフォロワー数	1,289	5,000

（参考）主な交流イベントの参加状況

（単位：人）

イベント名	令和元年度
吉里吉里忌	1,046
えきまち・子どもフェスタ	300
ダリア球根直売会	1,700
こまつ市	1,497
ひめさゆりウォーク（平成30年度）	74
ハーブガーデンフェア	6,512
川西ダリヤ園 ※	45,318
かわにし夏まつり	9,500
水上爆走大会	99
ダリヤカップマウンテンバイク大会	200
東北ダリヤ名花展 ※	3,241
かわにし秋まつり ※	3,579
地酒と黒べこまつり	878
ダリヤ杯ゲートボール大会	144
かわにし産業フェア	1,500
ダリアの切り花収穫デー ※	3,020
芸術文化祭	850
初日の出スノーシューハイク	34
元旦マラソン	250
春待ち市&音楽祭	3,100
玉庭ひなめぐり（平成30年度）	784
教育旅行	1校32

※）川西ダリヤ園内でのイベント

## 第4章 主要アクションプラン

本計画の目標を達成するために、次のとおり基本方針と主な取り組みを策定し、具体的なアクションプランを設定します。

### 1 地域資源の発掘と磨き上げ

#### (1) 広域観光の推進

交流人口の増大や魅力ある観光地づくり、観光商品の造成を進めるため、広域観光は大変重要なものとなっています。近隣自治体や観光施設及び旅行商品として販売できる旅行業者との連携により、広域的な観光資源を活用した誘客促進を図ります。

#### ◆具体的なアクションプラン

##### ○観光協議会等や近隣の旅行業者との連携

- ・山形おきたま観光協議会や、やまがた観光キャンペーン推進協議会等、関係団体との連携強化による誘客促進
- ・観光地域づくり法人（DMO）と連携した旅行商品の販売 など

##### ○広域連携した観光ルートの設定

- ・観光花公園と連携したルートの設定
- ・テーマ設定による近隣市町との繋がりのあるまち歩きコースの設定 など

##### ○JR・山形鉄道との連携

- ・鉄道ファンにスポットを当てた鉄道各社との連携
- ・「駅長オススメの小さな旅」におけるモデルコースの設定 など

##### ○近隣市町の観光資源の相互宣伝

- ・最寄りの道の駅やICから来町するための仕組みづくり
- ・近隣温泉宿泊施設との連携 など

## (2) 体験観光の推進

団体旅行から個人旅行へ、「モノ」から「コト」消費への変化に伴う体験型観光へのニーズの変化など、ターゲットごとのニーズを的確に捉えた誘客の推進が必要となります。

各事業者は、町内の農畜産物や加工品、地場産品などを積極的に活用するとともに、旅行者にとって魅力的なアクティビティを開発、提供します。

また、集客型の観光施設に限られた本町のような地域では、ガイドによる旅行者の案内が満足度を高めています。町の歴史や施設を案内するボランティアガイドのほか、今後は旅行者の希望に沿っていつでもアクティビティの案内や指導ができるガイドを育成します。

### ◆具体的なアクションプラン

#### ○アクティビティ商品の開発

- ・雪を資源として活用することによる冬季観光の誘客促進
- ・フットパスコースの設定と活用
- ・少人数による旅行を意識した観光商品の開発 など

#### ○多様な宿泊形態への対応

- ・多様な宿泊形態に対応したプランの設定
- ・空き家（古民家）の観光資源としての活用 など

#### ○川西ならではの食文化・歴史文化の企画・体験と物産販売

- ・川西の食文化や暮らしを体験しながら、その背景にある町の歴史や文化を体感できるツーリズムの推進
- ・地元食材にこだわったメニューの提供や、店舗が連携した販売企画 など

#### ○里山観光に着目した自然体験の推進

- ・やまがた百名山の選定により、需要が拡大している高戸屋山を含めた内山沢を活用した体験滞在型の商品開発 など

#### ○対人による観光ガイド組織の充実

- ・体験案内のできるアクティビティガイドの育成
- ・「ダリヤの里かわにし案内人」の充実、育成 など

### (3) 魅力を高める観光資源の開発

観光産業の振興を図っていくためには、旅行者にとって魅力と感じられる新たな価値を創出し、旅行者に提供していくことが重要です。個々の取り組みだけでなく、お互いに不足している観光資源を補いながら、魅力アップを図ることで滞在時間を延ばすことに繋がることから、観光資源の連携によりお互いの長所を引き出す取り組みを推進します。

#### ◆具体的なアクションプラン

##### ○各々の観光資源と連携した事業推進

- ・町内文化施設や産直施設を含めた相互周遊の促進
- ・置賜農業高校と連携した事業推進
- ・町内在住外国人を起点とした交流事業の推進 など

##### ○食文化をはじめとした風習や伝統への着目

- ・料亭をはじめとした飲食店にスポットを当て、今ある長所を引き出す取り組みの推進
- ・集落単位で古くから継承されている祭事への参加、体験の促進による交流人口の拡大 など

## 2 観光の拠点整備

### (1) ふれあいの丘の各施設の充実と連携

本町の観光のシンボル「川西ダリヤ園」、温泉宿泊施設「浴浴センターまどか」、協会認定コースが整備されている「川西ダリヤパークゴルフ場」、城址とハーブガーデンがある「置賜公園」、やまがた百名山に選定された高戸屋山を含めた「内山沢」などで構成される「ふれあいの丘」は、行政が主体となって整備が図られてきました。

一方で、エリア全体の統一感に乏しく、機能の強化や改修が必要な施設も残されています。

今後は観光の核として、エリア全体で機能と認知度の向上を図り、旅行者が訪問したいと思える環境整備を図ります。

#### ◆具体的なアクションプラン

##### ○エリア全体の認知度向上

- ・「ふれあいの丘」全体としてのパンフレットやウェブサイトの作成
- ・置賜公園の通年利用を見通した環境整備
- ・旅行者にとってわかりやすい案内看板整備と、デザインの統一 など

##### ○ふれあいの丘の機能連携

- ・浴浴センターの観光拠点としての機能整備の調査、研究
- ・雪を資源として活用することによる冬季観光の誘客促進【再掲】 など

## (2) ダリアの総合拠点となる川西ダリア園の充実

ダリア園を総合的なダリアの拠点としながら、ダリアに関する情報の収集や発信を行い、交流・関係人口の拡大に繋がります。

日本一のダリア園を充実するため、ダリア栽培技術の向上や新品種の開発を促進します。

#### ◆具体的なアクションプラン

##### ○日本一の観光ダリア園の更なる充実

- ・花の鑑賞にスポットを当てた参加型キャンペーンの実施
- ・新たな生活様式に対応したトイレの洋式化や自動水洗化等の環境整備 など

##### ○ダリアに関するブランド力の向上

- ・川西産オリジナル品種の安定供給に対する協力
- ・ダリア関連資料の有効活用 など

##### ○ダリア栽培技術の向上と新品種開発

- ・良質な球根の安定生産の確立
- ・栽培技術の向上のための専門機関との連携
- ・安定した新品種開発のための調査・研究 など

### (3) 町内滞在時間を延ばす取り組みの構築

町内の観光関連産業を盛り上げるには、観光の恩恵を地域で享受できるような仕組みが必要です。「ふれあいの丘」の旅行者に対して、町内の各施設・名所や飲食店等への周遊につなげる仕組みづくりを構築します。

さらに、観光消費による経済効果は、旅行者の町内滞在時間を延ばす取り組みを行うことによって大きくなります。宿泊や交通サービスの提供にあたっては、選択肢を確保するとともに、各事業者は、他のサービス提供者との連携を図り、使い勝手の良いプランを企画します。

#### ◆具体的なアクションプラン

##### ○誘導促進のための連携事業の推進

- ・商店等の協力による、町内への誘導促進
- ・町内を周遊するための飲食、宿泊、交通事業者間の連携 など

##### ○観光拠点から町内施設への誘導

- ・「イザベラ・バード」や「井上ひさし」といった著名人をキーワードにしたまちなか散策のルート設定
- ・フレンドリープラザを拠点にするなど、文化施設と観光地を相互に周遊できるルートの設定
- ・フットパスコースの設定と活用【再掲】
- ・川西の食文化や暮らしを体験しながら、その背景にある町の歴史や文化を体感できるツーリズムの推進【再掲】 など

##### ○周遊しやすい環境の整備

- ・歴史や文化にふれながら、まちあるきを誘導するためのサイン計画の整備 など

### 3 効果的な情報発信の強化

#### (1) ICTを活用した情報発信

観光情報の発信にあたっては、対象者を明確にし、実際に人が動くことを想定した発信が必要です。これまで本町を訪れていたのは、本県及び宮城、福島、新潟からの旅行者が中心で、これに北関東各県が続いています。一方、インバウンドについては、販売や受け入れのノウハウに乏しく、実績もほとんどありません。このことから、現状の南東北と北関東を含めた東日本の国内旅行者をメインターゲットにするのが現実的と考えられます。

総合的な固定情報については、観光パンフレットやウェブサイトには正確な情報を詳細まで掲載し、最終的な問い合わせや予約のツールとすることが必須です。SNSは手軽に最新の情報を発信するとともに、ハッシュタグの機能を使うことで特定のテーマに関心がある人に情報を届けるのにも適していることから、様々な手法により情報を発信していきます。

#### ◆具体的なアクションプラン

##### ○SNS等を活用した効果的な情報発信

- ・ハッシュタグの効果的な活用
- ・ユーチューブによる動画を有効活用した情報発信
- ・インスタグラムによるキャンペーンの実施
- ・旅行商品の提供者が効率的に情報発信するためのプラットフォームの構築 など

##### ○情報発信サポーターの発掘

- ・情報発信サポーターによる効果的な情報拡散と発信機能の強化 など

#### (2) ターゲットに応じた発信媒体の活用

情報発信の内容としては、旅行者に本町を訪れたい、と思わせる情報の発信が第一です。テーマなどの切り口を工夫した情報の編集や、魅力的な素材（動画や画像、テキスト）の準備、インフルエンサーを介する等の発信の工

夫で、旅行者の目的地となる必要があります。さらには、マスメディアの影響力は大きく、テレビ等に取り上げられるような企画を仕込むことも効果的であり、情報発信媒体の活用と情報拡散を目指した企画を推進します。

#### ◆具体的なアクションプラン

##### ○効果的な発信手法の活用

- ・総合的な観光ウェブサイトやパンフレットの整備
- ・インフルエンサーを介した発信
- ・マスメディアによる情報拡散を考慮した企画 など

## 4 観光推進体制の確立

### (1) 総合的な受入体制の構築

旅行者のニーズが多様化したことから、旅行の形態も団体旅行から個人旅行へとシフトし、各個人の志向にあった商品の提供が求められています。このような変化に対応するには、地域独自の歴史文化や地域資源を活かした旅行商品が必要であり、これを幅広い分野の人々が連携し、つくりあげる着地型観光の取り組みがより一層重要度を増しています。

そして、このような取り組みを継続的に維持するためには組織が必要です。組織のあり方については、既存の関係団体の状況をふまえながら協議をし、総合的な受入体制の構築を目指します。

#### ◆具体的なアクションプラン

##### ○観光推進体制の確立

- ・実態にあった推進体制を確立するための課題の整理、ニーズの調査
- ・観光総合案内窓口機能の充実等、観光基盤の確立 など

##### ○運営体制の最適化

- ・町内関係団体の整理、統合に向けての調査、研究 など

## ◎アクションプランの取組主体とスケジュール

本計画を着実に推進するため、アクションプランごとの取組主体とスケジュールを以下に示します。

1 地域資源の発掘と磨き上げ						
(1) 広域観光の推進	取組主体	実施時期				
		R3	R4	R5	R6	R7
観光協議会等や近隣の旅行者との連携	各種団体、事業者、行政		●	→		
広域連携した観光ルートの設定	各種団体、事業者、行政	●	→			
J R・山形鉄道との連携	各種団体、事業者、行政	●	→			
近隣市町間の観光資源の相互宣伝	各種団体、事業者、行政		●	→		
(2) 体験観光の推進	取組主体	実施時期				
		R3	R4	R5	R6	R7
アクティビティ商品の開発	町民、各種団体、事業者、行政		●	→		
多様な宿泊形態への対応	事業者、行政		●	→		
川西ならではの食文化・歴史文化の企画・体験と物産販売	町民、事業者		●	→		
里山観光に着目した自然体験の推進	町民、各種団体、事業者		●	→		
対人による観光ガイド組織の支援	各種団体		●	→		
(3) 魅力を高める観光資源の開発	取組主体	実施時期				
		R3	R4	R5	R6	R7
各々の観光資源と連携した事業推進	町民、各種団体、事業者、行政		●	→		
食文化をはじめとした風習や伝統への着目	町民、事業者		●	→		
2 観光の拠点整備						
(1) ふれあいの丘の各施設の充実と連携	取組主体	実施時期				
		R3	R4	R5	R6	R7
エリア全体の認知度向上	行政		●	→		
ふれあいの丘の機能連携	各種団体、事業者、行政		●	→		
(2) ダリアの総合拠点となる川西ダリヤ園の充実	取組主体	実施時期				
		R3	R4	R5	R6	R7
日本一の観光ダリア園の更なる充実	行政	●	→			
ダリアに関するブランド力の向上	各種団体、行政	●	→			

ダリア栽培技術の向上と新品種開発	各種団体、行政					
<b>(3) 町内滞在時間を延ばす取り組みの構築</b>	取組主体	実施時期				
		R3	R4	R5	R6	R7
誘導促進のための連携事業の推進	町民、各種団体、事業者					
観光拠点から町内施設への誘導	各種団体、事業者、行政					
周遊しやすい環境の整備	行政					
<b>3 効果的な情報発信の強化</b>						
<b>(1) ICTを活用した情報発信</b>	取組主体	実施時期				
		R3	R4	R5	R6	R7
SNS等を活用した効果的な情報発信	町民、各種団体、事業者、行政					
情報発信サポーターの発掘	町民、各種団体、事業者、行政					
<b>(2) ターゲットに応じた発信媒体の活用</b>	取組主体	実施時期				
		R3	R4	R5	R6	R7
効果的な発信手法の活用	町民、各種団体、事業者、行政					
<b>4 観光推進体制の確立</b>						
<b>(1) 総合的な受入態勢の構築</b>	取組主体	実施時期				
		R3	R4	R5	R6	R7
観光推進体制の確立	各種団体、行政					
運営体制の最適化	各種団体、行政					

### ◎計画推進の検証評価

第2次川西町観光基本計画の推進にあたっては、外部の視点で評価できる組織を立ち上げるとともに、毎年度、行政評価システムを活用した検証評価を行い、計画（Plan）－実行（Do）－評価（Check）－改善（Action）のPDCAサイクルにより、事務事業の改善を図ります。

### ◎むすびに

この計画で目指すものは、川西町の人、自然、歴史、暮らしなどの魅力を多くの人に伝えることで、訪れてくれた人が実際に魅力を感じ「川西町に来てよかった」と思ってもらえるように旅の質を高め、そして、また町民が資

源を磨きあげ、伝えることで、観光客にとっての「行きがい」と町民にとっての「生きがい」が好循環となる観光によるまちづくりを推進するものです。

観光のキーワードは、『つながる』ことであるといわれます。町民や団体、事業者、近隣市町などと連携し合い、「川西町らしさ」「川西町ならではの」を追求し、経済効果を高めるため、観光振興の取組みを展開するものです。